

支部だより

珠の冴え

平成28年1月27日

第108号



発行所

公益社団法人 全国珠算教育連盟

青森県支部

所在地 三沢市中央町4丁目4-6

☎0176 (53) 3662

支部長 斎藤 隆

責任者 福士隆行

青森県知事と県教育長に優勝報告 全日本通信珠算競技大会

平成28年1月5日、27年度全日本通信珠算競技大会で優勝したメンバーが青森県庁を訪れ、三村申吾知事と中村充教育長に優勝を報告しました。訪問したのは、全日本通信珠算競技大会の中学校の部団体で優勝した三沢市立三沢第一中学校のメンバー3名。工藤壽和理事が、面談許可のお礼と大会の概要を説明、2年連続7回目となる優勝を報告しました。続いて指導した三沢珠算塾の斎藤拓哉先生が選手3名を紹介。昨年と同じメンバーでの快挙でした。

斎藤俊君(2年)は「昨年優勝しているのでプレッシャーがあった。満点とれなくて残念だったが勝ててホッとした」。工藤真大君(3年)は「優勝を目標に練習してきた。すごくうれしかった。100%の力を出せたと思う」。斎藤亜美さん(3年)は「メンバーみんなの力で優勝できた。結果を聞いて感動した」と3人それぞれが知事と教育長に感想を述べました。知事は「才能プラスこつこつと努力してきた結果だ。これからもみんなと力をあわせて頑張ってください」とみんなを激励、りんごジュースで乾杯した後、記念の写真を撮りました。



(左から) 斎藤亜美さん、斎藤俊くん、工藤真大くん

魅せる大会

むつ地区:工藤慎也

平成27年12月12日(土)、むつ地区で第38回そろばんキッズカップ選手権が行われた。以前は中学生の部もあったが、現在は2~6年生の小学生大会となっている。個人総合競技は4~8級までの全珠連検定問題に準じたもの。種目別競技は読上暗算・読上算・計算(毎日パソコン入力コンクール、計算の部準拠)の3種となっている。団体競技は塾別・学校別にはせず、抽選で組まれた3名で争う。

平成11年まで、この大会は「むつ地区珠算交歓会」という名称であった。その名の通り、そろばんを通じてむつ下北の子どもたちが交流を計る目的で始まった大会であるため、「キッズカップ」となった現在でも、他塾同士で団体を組む方式は変わっていない。組み合わせによっては、箸にも棒にも掛らないような選手にもチャンスが回ってくることもある。それでも入賞できなかった選手も、何かしらのものを持ち帰ることができるよう、お楽しみ抽選会も毎年行っている。20年前なら湧き出る泉のごとく使えた地区予算も、昨今では抽選会に回せる金額はスズメの涙。金がないなら知恵を出せということで、笑える賞品構成、賞品格差を作って場を盛り上げる手法を見出した。例えば年末の大掃除に使ってねと、量販店で売っている安価な雑巾50枚、または軍手を50束当てさせる。こんなのいらぬよといった感じでひとウケした後、1等「図書券500円」が出たりなんかすると、会場からはどよめきがおこる。たった500円を豪華に感じさせるトリック。他にも様々な手法や話術を織り交ぜ、近年は抽選会というより「抽選ショー」という趣になってきた。競技についても、毎年ほぼすべての種目で同点決勝があるのだが、個人総合の決定戦は壇上で対戦させている。競技する側はプレッシャーであるが、観覧する保護者にとっては見やすく、分かりやすい。読上競技(10問連続出題)では読むスピードをかなり遅くすると、10点満点の選手が多くなる。決定戦でも突然速く読んだりせず、何問か正答させる。すると選手も慣れてきて、結構速く読んでも正答者が多くなる。わが子の緊迫した戦いにため息の漏れる観覧の保護者たち。そして最後に、ひとりだけ正答の手が挙がったときの歓声。ゾワッとする。まるで競技を操作しているようにも見えるが、それでも最後には強い者が勝つ。勝つ子はどんな状況にも左右されないものだ。観戦に訪れた保護者のひとりが同点決勝の際、自分の子より緊張して手がプルプル震えたと言っていたが、運営する側はそんな話を聞くと、してやったりと思うのである。

このようにキッズカップはむつ地区会員が協力し合い、見せる大会から「魅せる大会」へと進化させてきた。全国大会や東北大会、県大会など、個々の大会が持つ個性は様々だが、むつ地区の珠算大会は「交歓会」の精神を忘れずに、今後も魅せていきたい。

この度は、第5回人材育成講習会に参加させていただける機会を与えてくださりまして、心からお礼申し上げます。

参加にあたり、テキストを熟読し、「自己紹介・支部自慢」を3分以内に終わらせるため練習をするなど私なりに準備していきましたが、13時開始に、参加者全員12時40分には着席されていて、この講習会に出席されている先生方の意気込みと意識の高さを実感することができました。また、オリエンテーションの際に、「講習の始まる5分前には着席すること」と注意がありましたが、僅か10分間の休憩であるにもかかわらず、それが徹底されていて見習うべきことだと感じました。



能登のり子先生と梶川理事長

第1講座【全珠連史 現状と展望・公益法人について】 全珠連史は、全珠連の成り立ち、法人許可申請の問題点、検定試験制度の歴史、現状と展望について梶川理事長からの講習でした。現在の全珠連があるのは多くの先人の先生方のご苦労や熱意をもったご尽力があったからこそと感じられ、人材育成には必要不可欠な講習でした。

第2講座【連盟の組織と運営】 まず、全ての事業が、定款・規則・規定に沿って運営されていること、そして会議における議事録の大切さについてのお話がありました。澤田委員長からの「珠算春秋は本棚に飾っておくだけのものではなく、読むためのものだ」とのお話に、興味のあるところだけ読んでいた私は、関心の持てないところこそ自分に必要なことが書いてあると認識を新たにしました。

第3講座【IT活用法】 検定のIT化は支部によって差があるようですが、青森県はパソコン導入によって、確実に時間の短縮が行われているので、改めて有難いと実感しました。

自己紹介・支部自慢【しゃべろう・聞いてみよう・打ち解けよう】 会員30名の確保にご苦労されている県や、毎月講習会を開いている県など、各支部によってさまざま、各県の取り組みだけで、講習会を開けそうです。

第4講座【珠算史・算法】 珠算史の講義では「世界一周旅行」をしたようで大変楽しく受講できました。算法を実際やってみると、解らない人が多かったようで「生徒のわからない気持ちがあるのではないか」という先生の言葉に皆さんすごい反応でした。

第5講座【算数科のそろばん】 「例えば4+3を1つ教えると、つぎの+1や+2をどう計算するかを考えさせるのが学校のそろばん」「先生は話を半分にし、生徒がそろばんを動かす時間を多くするように気を付ける」「仕組みがわかるように、また、教科書どおりに指導することが鉄則」とボランティア授業にも参考になる講座でした。

第6講座【そろばん授業に溶け込む算数】 「そろばんで身に付いた能力・技術を学校でどう披露するか」の為に算数チャレンジ検定の必要性和「1年生から順に増やしていけば」や、「もし検定は受けなくても、練習問題集だけでも」と利用方法についての講習でした。

第7講座【特別支援教育の考え方を生かした効果的な指導とは?】 学習面または行動面で著しい困難を示す生徒の割合が6.5%はいるという現実「見える化」「スモールステップ化」「スパイラル化」などの対応と、その授業における工夫について、具体的な例を挙げられての講座でした。

パネルディスカッション【THE うら技】 全体でのディスカッションで、多くの先生方の教室の運営の仕方や、指導法、工夫なども知ることができて大変参考になりました。

第8講座【数の多様性とそろばんの多用性】 バビロニアの楔形数字やマヤの数字、エジプトの聖刻数字の誕生や、2進法、格子掛け算などについて詳しく知ることができた講座でした。

おわりに 今回、全国各地の先生方と交流できたことで、多くの意見交換ができ、大変有意義な時間を過ごすことができ、貴重な財産となりました。澤田委員長の「あ・た・ま…明るく・楽しく・前向きに笑顔を絶やさず、を心に、これからも努力していきたいと思えます。

各地区の大会・表彰式の日程

2月14日(日)	弘前地区珠算競技大会・優良生表彰	弘前文化センター
2月21日(日)	上三地区珠算競技大会・優良生表彰	三沢市公会堂
2月27日(土)	南黒地区フラッシュ暗算フェスティバル	藤崎町文化センター
3月6日(日)	青森地区珠算競技大会	リンクステーション青森
	八戸地区珠算優良生表彰式	八戸グランドホテル
	十和田地区そろばん甲子園	(通信制)
1月3日(日)	西北五地区珠算競技大会	五所川原中央公民館
2月20日(日)	むつ地区珠算優良生表彰式	下北文化会館

最寄りの会場に見学に行ってみてね〜♪

